

# 青大 ほけんだより

2025年10月（第14号）



10月10日は「目の愛護デー」。



近年はパソコンやスマホが広く普及し、1人1台以上所持していることも珍しくありません。買い物や家族・友人との連絡等の日常生活はもちろん、学校生活においても各講義の出欠確認や履修登録、課題提出など、そのほとんどが、目に負担がかかる機器を介して行う時代になりました。今月号では、学校における視力検査の目的、そして青大生の視力の現状についてお知らせします。

## 視力検査の目的



学校における視力検査は、通常の学校生活に支障がないかどうかを判断するためのものです。教室では黒板（ホワイトボード）の文字がきちんと見えるのか、球技等の接觸を伴う授業や部活動等において危険を回避することができるのか、また、パソコン等の機器を使用しての授業を問題なく受けることができるのか等を把握するために必要な検査です。また、単純な近視だけではなく、重篤な眼疾患（角膜の炎症や感染、網膜の出血、視神経の異常等）を早期発見するという目的もあります。

## 視力「0.7」とは～教室のどこからでも黒板が見える視力～

「0.7」は、教室のどこからでも黒板（ホワイトボード）の文字が見える視力とされています。また、視力検査では、矯正（眼鏡やコンタクトを使用）している場合は、裸眼視力の測定を省略することができます。これは上記視力検査の目的にもあるように、「普段の学校生活における視力」を把握することが主たる目的だからです。

## 青大生の視力について～矯正（眼鏡・コンタクト使用者）の35%が0.7未満～

一番の問題は「あわない眼鏡やコンタクトレンズをずっと使い続けていること」です。これは数年前の矯正（眼鏡・コンタクトレンズを作った）時に比べて、明らかな変化（低下）がおきているにも関わらず、そのまま放置している学生が多いためだと思われます。

右のグラフは、学部別に比較したのですが、5.6年度ともに薬学部が高く、次いでソフトウェア情報学部となっています。保健室では、昨年度から視力表を整備し、希望者には視力の再検査を行っています。実際に再検査を行った学生は、眼鏡の再調整を行い、現在は矯正視力1.0程度で学校生活を送っています。学校生活だけではなく、自動車の運転や就活にも大きな影響を与える視力。保健室でもう一度検査をしてみませんか？

